



生涯学修制度 3

主に登録作業療法士の前期研修の履修方法について

2025年度の入会者のみなさまへ
(会員番号: 100205以降)

教育部生涯教育課 2025年12月

目次

- 登録作業療法士とは P3
- 登録作業療法士になるためのステップ P7
 - ①登録作業療法士制度前期研修 eラーニング P14
 - ②登録作業療法士制度 実地経験 P32

作業療法士国家資格取得

登録作業療法士

Association Registered
Occupational Therapist

前期研修
(概ね2年間)

講義
(eラーニング)

実地経験
(職場における実践)

MTDLP基礎研修

厚生労働省指定
臨床実習指導者講習会

後期研修
(概ね3年間)

講義, 演習

実地経験
(職場における実践)

認定作業療法士

Association Certified
Occupational Therapist

共通研修

管理運営

研究法

選択研修

身体障害

老年期障害

精神障害

発達障害

臨床能力実績の証明

専門作業療法士

Specialist Occupational
Therapist

研修実践

基礎

応用

研究・開発

臨床実践

研究実践

教育と社会貢献の実践

臨床能力実績

専門作業療法士の各分野が指定する要件の取得

取得と更新

登録作業療法士とは

登録作業療法士 定義

一般社団法人日本作業療法士協会登録作業療法士（以下、登録作業療法士）とは、従事する実践領域において頻繁にかかわる疾患や障害のある、またはそれが予測される人々に対し、標準的な作業療法プロセスに従い、独力で作業療法を実践する能力を有する作業療法士を本会が認定した者をいう。

登録作業療法士とは

(注釈)

<必要な能力>

- ・対象者の生活行為のニーズを捉える力
- ・生活行為の向上に向けてセラピーする力
- ・生活行為の達成のために協働する力
- ・成果・結果を吟味し伝える力

登録作業療法士

最新の知見に基づき独立で
作業療法を実践する

従事する実践領域において
頻繁にかかる疾患や障害
のある、またはそれが予測
される人々

<一連の作業療法の過程>

- ①対象者への説明と同意に基づいて行われる生活行為のニーズを捉える評価
- ②課題の抽出
- ③妥当な目標の設定
- ④妥当なプログラムの作成と安全な実施および記録
- ⑤結果・成果の吟味と報告・伝達

※現場における基本的な業務管理や他職種・他部署との協働、後輩・学生などへの指導を含む。

作業療法士国家資格取得

登録作業療法士

Association Registered
Occupational Therapist

前期研修
(概ね2年間)

講義
(eラーニング)

実地経験
(職場における実践)

MTDLP基礎研修

厚生労働省指定
臨床実習指導者講習会

後期研修
(概ね3年間)

講義, 演習

実地経験
(職場における実践)

認定作業療法士

Association Certified
Occupational Therapist

共通研修

管理運営

研究法

選択研修

身体障害

老年期障害

精神障害

発達障害

臨床能力実績の証明

専門作業療法士

Specialist Occupational
Therapist

研修実践

基礎

応用

研究・開発

臨床実践

研究実践

教育と社会貢献の実践

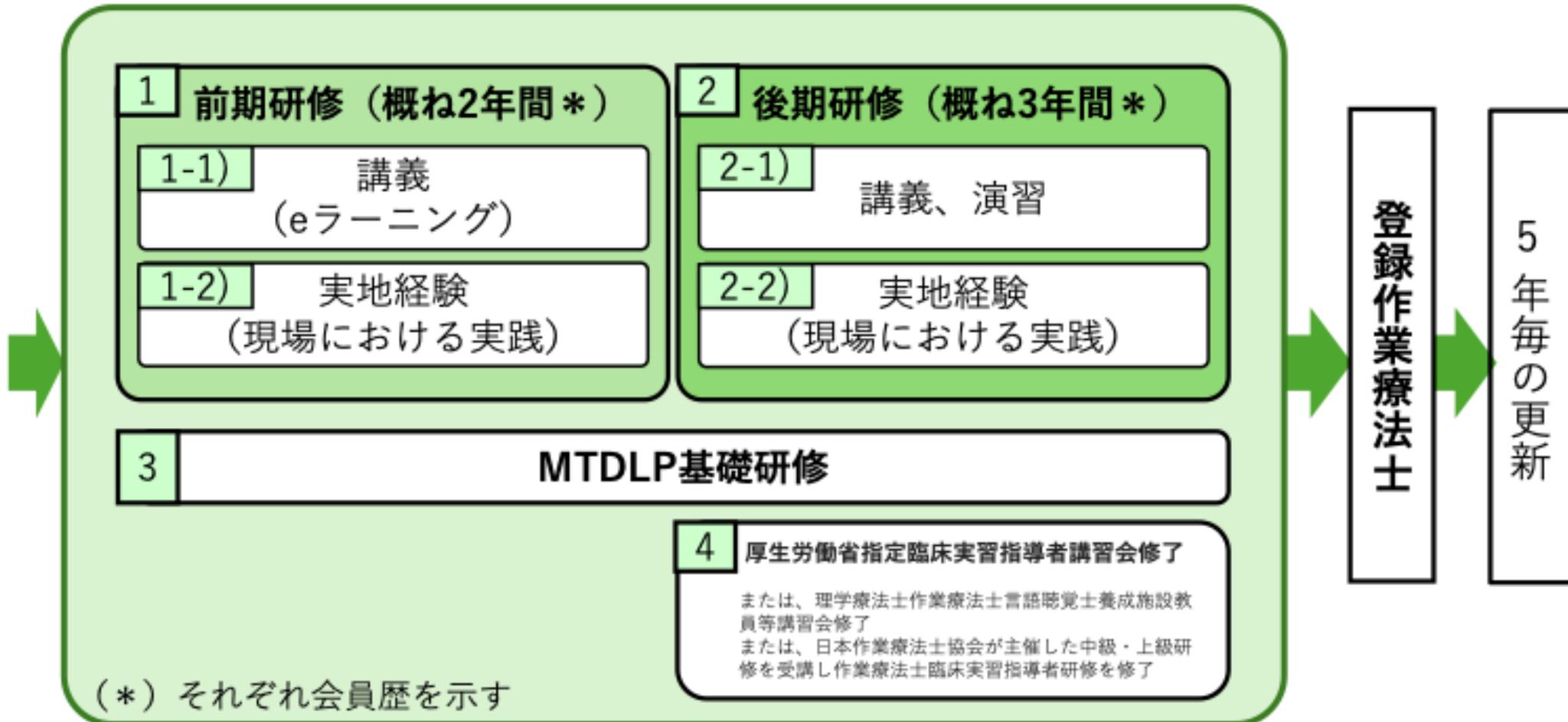
臨床能力実績

専門作業療法士の各分野が指定する要件の取得

取得と更新

登録作業療法士制度 概要

日本作業療法士協会、各都道府県士会へ入会



* 前期研修の2年間、後期研修の3年間とは、OT協会の会員歴がそれぞれ通算2年、通算3年をいう
* OT協会の会員歴は、入会月に関わらず、入会した年度を会員歴1年とカウントする

登録作業療法士制度 概要

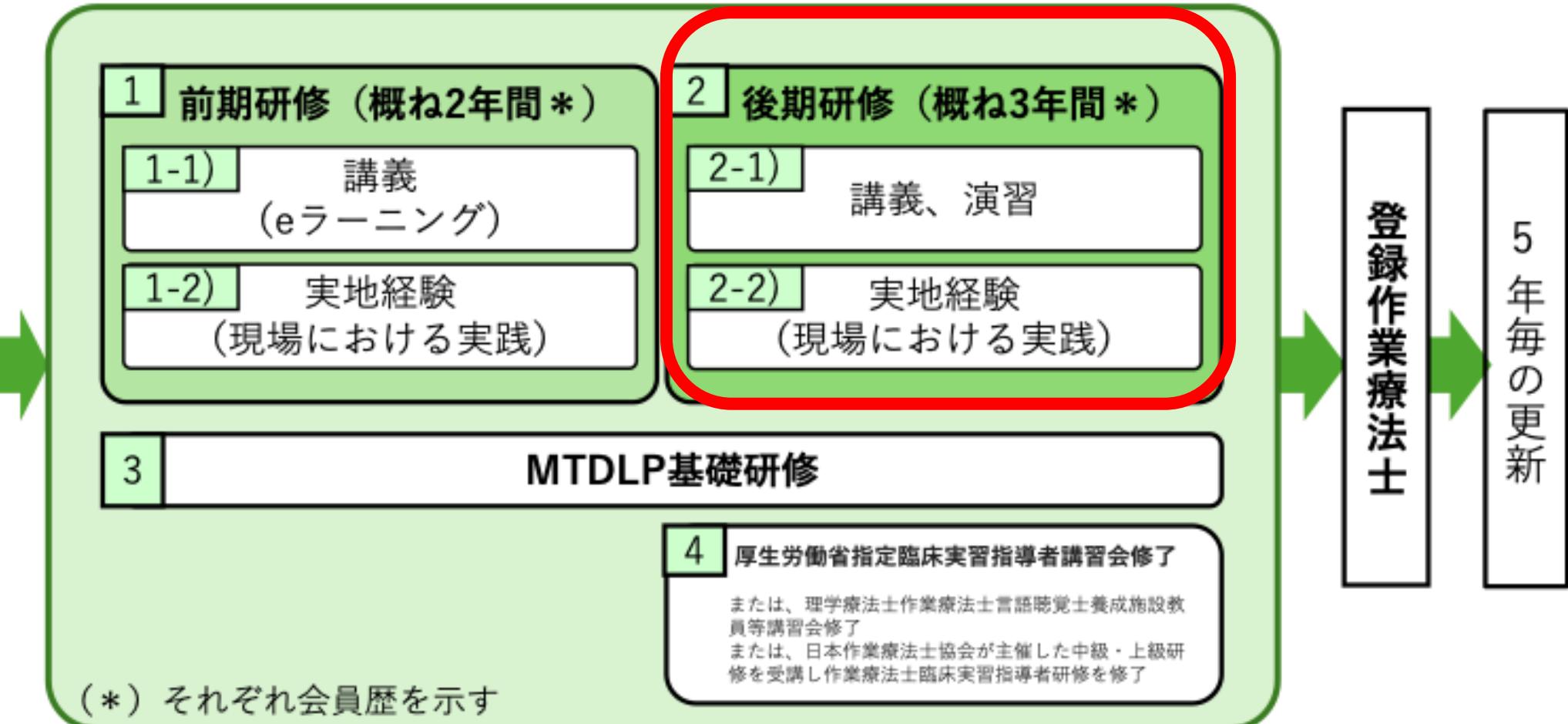
日本作業療法士協会、各都道府県士会へ入会



* 前期研修の2年間、後期研修の3年間とは、OT協会の会員歴がそれぞれ通算2年、通算3年をいう
* OT協会の会員歴は、入会月に関わらず、入会した年度を会員歴1年とカウントする

登録作業療法士制度 概要

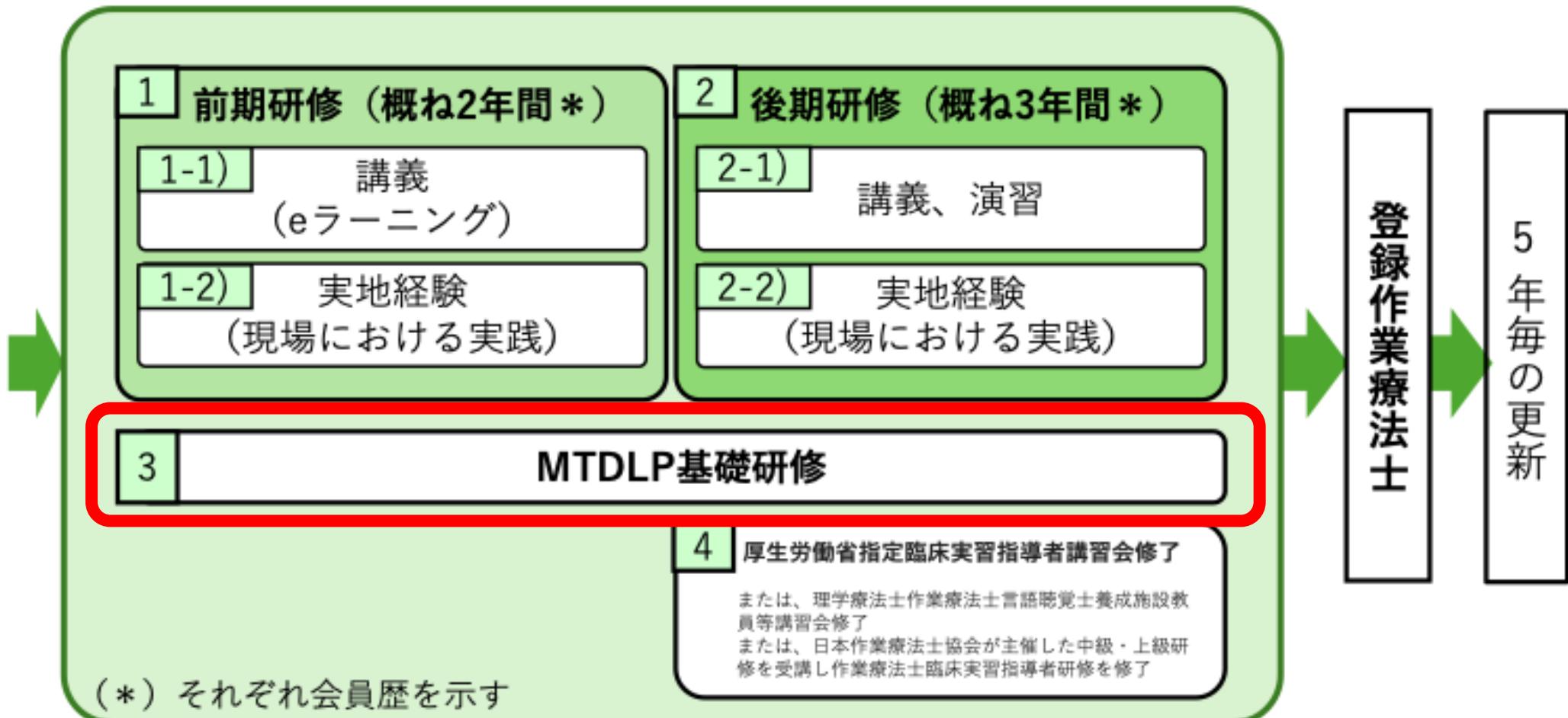
日本作業療法士協会、各都道府県士会へ入会



* 前期研修の2年間、後期研修の3年間とは、OT協会の会員歴がそれぞれ通算2年、通算3年をいう
* OT協会の会員歴は、入会月に関わらず、入会した年度を会員歴1年とカウントする

登録作業療法士制度 概要

日本作業療法士協会、各都道府県士会へ入会



* 前期研修の2年間、後期研修の3年間とは、OT協会の会員歴がそれぞれ通算2年、通算3年をいう
* OT協会の会員歴は、入会月に関わらず、入会した年度を会員歴1年とカウントする

登録作業療法士制度 概要

日本作業療法士協会、各都道府県士会へ入会



* 前期研修の2年間、後期研修の3年間とは、OT協会の会員歴がそれぞれ通算2年、通算3年をいう
* OT協会の会員歴は、入会月に関わらず、入会した年度を会員歴1年とカウントする

MTDLP 作業療法士制度 概要

まずはこれをクリアしましよう！

作業療法士協会、各都道府県士会へ入会

1 前期研修（概ね2年間＊）

1-1) 講義
(eラーニング)

1-2) 実地経験
(現場における実践)

2 後期研修（概ね3年間＊）

2-1) 講義、演習

2-2) 実地経験
(現場における実践)

3

MTDLP基礎研修

4

厚生労働省指定臨床実習指導者講習会修了

または、理学療法士作業療法士言語聴覚士養成施設教員等講習会修了
または、日本作業療法士協会が主催した中級・上級研修を受講し作業療法士臨床実習指導者研修を修了

(*) それぞれ会員歴を示す

登録作業療法士

5年毎の更新

* 前期研修の2年間、後期研修の3年間とは、OT協会の会員歴がそれぞれ通算2年、通算3年をいう
* OT協会の会員歴は、入会月に関わらず、入会した年度を会員歴1年とカウントする

登録作業療法士制度

前期研修

eラーニング

- ・インターネット環境にあればいつでもどこでも受講可能
- ・パソコン、スマホ、タブレットの好きなもので受講可能
(併用も可能)
- ・会員であれば全講座無料

生涯学修制度 登録作業療法士前期研修 eラーニング講座一覧

A領域 作業療法士基礎力 ～臨床実践のための基礎知識～		B領域 作業療法分野横断的基礎力 ～臨床実践のための共通知識～		C領域 作業療法分野特異的専門力 ～臨床実践のための専門知識～	
	テーマ		テーマ		テーマ
1	職業倫理①【法律、社会全体に関する内容】	1	一次救命処置①【基礎】	1	身体障害 脳血管障害①【急性期】
2	職業倫理②【作業療法領域での倫理】	2	一次救命処置②【手技】	2	身体障害 脳血管障害②【回復期】
3	職業倫理③【臨床、実習指導での対応】	3	クリニカルリーズニング①【基礎】	3	身体障害 脳血管障害③【生活期（維持期）】
4	協会組織【作業療法定義・対象・目的】	4	クリニカルリーズニング②【面接の活用】	4	身体障害【がん】
5	作業療法の動向①【世界から見た日本の動向と現状】	5	クリニカルリーズニング③【活動分析の活用】	5	身体障害 整形疾患①【骨折、骨折関連】
6	作業療法の動向②【世界の動向と現状】	6	クリニカルリーズニング④【統合と解釈】	6	身体障害 整形疾患②【脊損】
7	作業療法の動向③【国際交流、国際協力】	7	クリニカルリーズニング⑤【効果判定】	7	身体障害【内部障害】
8	作業療法における協業①【対象者、家族】	8	作業療法研究①【作業療法実践とエビデンス】	8	身体障害【難病】
9	作業療法における協業②【多職種連携】	9	作業療法研究②【臨床研究概論】	9	精神障害 統合失調症①【急性期】
10	作業療法における協業③【災害時の対応、平時の取り組み】	10	作業療法研究③【研究結果のみかた】	10	精神障害 統合失調症②【回復期～生活期（維持期）】
11	マネジメント【リーダーシップとセルフマネジメント】	11	作業療法研究④【医療統計】	11	精神障害【気分障害】
12	介護保険制度【概論】	12	作業療法研究⑤【学会発表・論文発表】	12	精神障害【依存症】
13	医療保険制度【概論】	13	作業療法研究⑥【事例報告】	13	発達障害【脳性麻痺】
14	障害者総合支援制度【概論】	14	リスクマネジメント①【感染予防・対策】	14	発達障害【重症心身障害】
15	地域包括ケアシステム【概論】	15	リスクマネジメント②【暴力リスクアセスメント】	15	発達障害【神経筋疾患】
16	作業療法実践に関する記録・報告【概論】	16	保健・医療・福祉と地域支援①【地域包括ケアシステム】	16	発達障害 神経発達症①【基礎】
17	作業療法生涯学修概論①【OT協会、都道府県士会】	17	保健・医療・福祉と地域支援②【共助、互助】	17	発達障害 神経発達症②【作業療法実践】
18	作業療法生涯学修概論②【生涯学修制度】	18	保健・医療・福祉と地域支援③【特別支援、総合支援法】	18	老年期障害【廃用症候群】
19	作業療法士の働き方・展開①【キャリア形成】	19	MTDLP基礎【概論】	19	老年期障害 認知症①【基礎】
20	作業療法士の働き方・展開②【ワークライフバランス】	20	MTDLP基礎【活用】	20	老年期障害 認知症②【作業療法実践】
				21	老年期障害【介護予防】
				22	老年期障害【地域リハビリテーション】
				23	司法領域の作業療法【概論】
				24	義肢装具【種類、目的、適応、制度】
				25	福祉用具①【シーティング、ポジショニング】
				26	福祉用具②【各種用具、自助具】
				27	自動車運転と地域移動支援【再開に向けた取組み】
				28	就労支援【復職の流れ、各種サービス】
				29	住宅改修【概論】
				30	高次脳機能障害【概論】

- ・70講座（1講座約30分+テスト+アンケート）
- ・会員はすべて無料で受講できます。

A領域：作業療法士基礎力

～臨床実践のための基礎知識～

1. 職業倫理①【法律、社会全体に関する内容】
2. 職業倫理②【作業療法領域での倫理】
3. 職業倫理③【臨床、実習指導での対応】
4. 協会組織【作業療法定義・対象・目的】
5. 作業療法の動向①【世界から見た日本の動向と現状】
6. 作業療法の動向②【世界の動向と現状】
7. 作業療法の動向③【国際交流、国際協力】
8. 作業療法における協業①【対象者、家族】
9. 作業療法における協業②【多職種連携】
10. 作業療法における協業③【災害時の対応、平時の取り組み】

A領域：作業療法士基礎力

～臨床実践のための基礎知識～

- | 1. マネジメント【リーダーシップとセルフマネジメント】
- | 2. 介護保険制度【概要】
- | 3. 医療保険制度【概要】
- | 4. 障害者総合支援制度【概要】
- | 5. 地域包括ケアシステム【概要】
- | 6. 作業療法実践に関する記録・報告【概論】
- | 7. 作業療法生涯学修概論①【OT協会、都道府県士会】
- | 8. 作業療法生涯学修概論②【生涯学修制度】
- | 9. 作業療法士の働き方・展開①【キャリア形成】
- 20. 作業療法士の働き方・展開②【ワークライフバランス】

B領域：作業療法分野横断的基礎力

～臨床実践のための共通知識～

1. 一次救命処置①【基礎】
2. 一次救命処置②【手技】
3. クリニカルリーズニング①【基礎】
4. クリニカルリーズニング②【面接の活用】
5. クリニカルリーズニング③【活動分析の活用】
6. クリニカルリーズニング④【統合と解釈】
7. クリニカルリーズニング⑤【効果判定】
8. 作業療法研究①【作業療法実践とエビデンス】
9. 作業療法研究②【臨床研究概論】
10. 作業療法研究③【研究結果のみかた】

B領域：作業療法分野横断的基礎力

～臨床実践のための共通知識～

- 1 1. 作業療法研究④【医療統計】
- 1 2. 作業療法研究⑤【学会発表・論文発表】
- 1 3. 作業療法研究⑥【事例報告】
- 1 4. リスクマネジメント①【感染予防・対策】
- 1 5. リスクマネジメント②【暴力リスクマネジメント】
- 1 6. 保健・医療・福祉と地域支援①【地域包括ケアシステム】
- 1 7. 保健・医療・福祉と地域支援②【共助、互助】
- 1 8. 保健・医療・福祉と地域支援③【特別支援、総合支援法】
- 1 9. MTDLP基礎【概論】
- 2 0. MTDLP基礎【活用】

C領域：作業療法分野特異的専門力

～臨床実践のための専門知識～

1. 身体障害 脳血管障害①【急性期】
2. 身体障害 脳血管障害②【回復期】
3. 身体障害 脳血管障害③【生活期（維持期）】
4. 身体障害【がん】
5. 身体障害 整形疾患①【骨折、骨折関連】
6. 身体障害 整形疾患②【脊損】
7. 身体障害【内部障害】
8. 身体障害【難病】
9. 精神障害 統合失調症①【急性期】
10. 精神障害 統合失調症②【回復期～生活期（維持期）】

C領域：作業療法分野特異的専門力

～臨床実践のための専門知識～

- | 1. 精神障害 【気分障害】
- | 2. 精神障害 【依存症】
- | 3. 発達障害 【脳性麻痺】
- | 4. 発達障害 【重症心身障害】
- | 5. 発達障害 【神経筋疾患】
- | 6. 発達障害 神経発達症① 【基礎】
- | 7. 発達障害 神経発達症② 【作業療法実践】
- | 8. 老年期障害 【廃用症候群】
- | 9. 老年期障害 認知症① 【基礎】
- 20. 老年期障害 認知症② 【作業療法実践】

C領域：作業療法分野特異的専門力

～臨床実践のための専門知識～

- 21. 老年期障害【介護予防】
- 22. 老年期障害【地域リハビリテーション】
- 23. 司法領域の作業療法【概論】
- 24. 義肢装具【種類、目的、適応、制度】
- 25. 福祉用具①【シーティング、ポジショニング】
- 26. 福祉用具②【各種用具、自助具】
- 27. 自動車運転【再開に向けた取組み】
- 28. 就労支援【復職の流れ、各種サービス】
- 29. 住宅改修【総論】
- 30. 高次脳機能障害【総論】

eラーニングの受講

視聴にあたっては、配信システム「Cloud Campus」を使用します。

URL <https://ccampus.org/>

ログインID：jaot-xxxxxx

※「xxxxxx」にはご自身の6桁の会員番号（5桁以下の番号の方は頭に0をつける。）

例：会員番号がxxxxの場合は「jaot-00xxxx」と入力する。

サイトID：jaot

ログインパスワードは初回ログイン時に変更するよう求められます。

初回ログインパスワード：
生年月日8桁

※2000年4月1日生まれであれば
「20000401」

Cloud Campus



【定期メンテナンスのお知らせ】

定期メンテナンスのため、
11月13日（木）19:00～23:00は全サービスを停止致します。

受講される方は、必ずシステムメンテナンス開始時間前までに受講を終了してください。

受講中にシステムメンテナンスになると受講履歴が記録されません。

ご不便をおかけ致しますが、何卒ご理解いただきますようお願い申し上げます。

jaot

ログインID

パスワード



サインイン

パスワードをお忘れの方はこちら

A 領域

【作業療法士基礎力】
～臨床実践のための基礎知識～



A 領域 作業療法士基礎力…
次のチャプター

講義動画



コース進捗

0/61

残り期間
-

総得点

0/2000

【作業療法分野横断的基礎力】
～臨床実践のための共通知識～



B 領域 作業療法分野横断…
次のチャプター

講義動画



コース進捗

0/62

残り期間
-

総得点

0/2000

【作業療法分野特異的専門力】
～臨床実践のための専門知識～



C領域 作業療法分野特異…
次のチャプター

講義動画



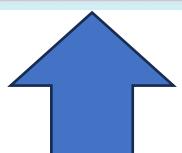
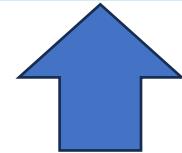
コース進捗

0/91

残り期間
-

総得点

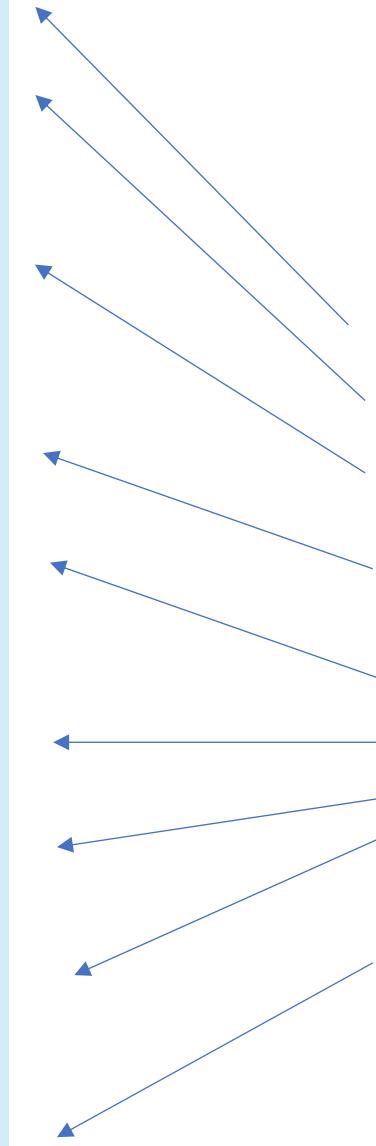
0/3000



どの領域から受講しても構いません。

※Bを2つ受講し、そのあとCを1つ受講、それからAを受講・・・
というような方法もOKです！

-  1.職業倫理①【法律、社会全体に関する内容】
-  2.職業倫理②【作業療法領域での倫理】
-  3.職業倫理③【臨床、実習指導での法的問題】
-  4.協会組織【作業療法定義・対象・目的】
-  5.作業療法の動向①【世界から見た日本の動向と現状】
-  6.作業療法の動向②【世界の動向と現状】
-  7.作業療法の動向③【国際交流、国際協力】
-  8.作業療法における協業①【対象者、家族】
-  9.作業療法における協業②【多職種連携】
-  10.作業療法における協業③【災害時の対応、平時の取り組み】
-  11.マネジメント【リーダーシップとセルフマネジメント】
-  12.介護保険制度【総論】
-  13.医療保険制度【総論】
-  14.障害者総合支援制度【総論】
-  15.地域包括ケアシステム【総論】
-  16.作業療法実践に関する記録・報告
-  17.作業療法生涯学修概論①【OT協会、都道府県土会】
-  18.作業療法生涯学修概論②【生涯学修制度】
-  19.作業療法士の働き方・展開①【キャリア形成】
-  20.作業療法士の働き方・展開②【ワークライフバランス】
-  A領域 章末アンケート (A領域の20講座終了後に回答ください)



各領域、たくさんの講座がありますが、どの講座から受講しても構いません。

興味があるものから受講していってください。

1.職業倫理①【法律、社会全体に関する内容】

2.職業倫理②【作業療法領域での倫理】

3.職業倫理③【臨床、実習指導での法的問題】

4.協会組織【作業療法定義・対象・目的】

5.作業療法の動向①【世界から見た日本の動向と現状】

6.作業療法の動向②【世界の動向と現状】

7.作業療法の動向③【国際交流、国際協力】

8.作業療法における協業①【対象者、家族】

9.作業療法における協業②【多職種連携】

10.作業療法における協業③【災害時の対応、平時の取り組み】

11.マネジメント【リーダーシップとセルフマネジメント】

12.介護保険制度【総論】

13.医療保険制度【総論】

14.障害者総合支援制度【総論】

15.地域包括ケアシステム【総論】

16.作業療法実践に関する記録・報告

17.作業療法生涯学修概論①【OT協会、都道府県土会】

18.作業療法生涯学修概論②【生涯学修制度】

19.作業療法士の働き方・展開①【キャリア形成】

20.作業療法士の働き方・展開②【ワークライフバランス】

各領域の全講座を受講し終えると、**章末アンケート**に回答できるようになります。

章末アンケートの回答まで済ませて、その領域の受講修了になるのでお忘れないようにご注意ください。



A領域 章末アンケート (A領域の20講座終了後に回答ください)

| 講座は約30分の動画、テスト、アンケートで構成されています。

ホーム
コース一覧
プロフィール

＜A領域 作業療法士基礎力 ～臨床実践のための基礎知識～

登録作業療法士制度 前期研修

A領域

【作業療法士基礎力】
～臨床実践のための基礎知識～

日本作業療法士協会
Japan Association of Occupational Therapists

概要・資料 Q&A

Lesson

- 1.職業倫理①【法律、社会全体に関する内容】
- 2.職業倫理②【作業療法領域での倫理】
- 3.職業倫理③【臨床、実習指導での法的問題】
- 4.協会組織【作業療法定義・対象・目的】
- 5.作業療法の動向①【世界から見た日本の動向と現状】
- 6.作業療法の動向②【世界の動向と現状】
- 7.作業療法の動向③【国際交流、国際協力】
- 8.作業療法における協業①【対象者、家族】
- 9.作業療法における協業②【多職種連携】

Chapter

- 講義動画
- テスト
- アンケート

次のチャプター

講義動画

各講座、
1) 講義動画の視聴
2) テストに合格
3) アンケートに回答
の順に受講していきます。

A領域 作業療法士基礎力
～臨床実践のための基礎知識～

講義動画

1 職業倫理①
【法律、社会全体に関する内容】

再生時間 00:28:34

ステータス 未受講

受講開始 チャプター詳細

受講修了にはアンケートまで回答する必要があります。

動画視聴

コース詳細

日本作業療法士   生涯学修制度

登録作業療法士制度 前期研修

A 領域 作業療法士基礎力
～臨床実践のための基礎知識～

職業倫理①

【法律、社会全体に関する内容】

0:00 28:34

一般社団法人
日本作業療法士協会
Japanese Association of Occupational Therapists

著作権情報

ナップタード

テストを受ける

3. テスト

受講内容の理解度を確認するためのテストです。

このテストに合格し、アンケートに回答することでこの講座の受講が修了となります。

合格点は満点です。不合格の場合、合格するまで繰り返しテストを受けることができます。

動画は2回目の視聴からは再生速度を速くしたり、必要な個所を指定しながらの視聴もできるので必要に応じて内容を再確認してください。

合格点は満点ですが、不合格の場合、合格するまで繰り返しテストを受けられます。

動画は2回目の視聴からは早送り再生やスキップ再生が可能になるので、必要に応じて内容を再確認してください。

[テストを受けない](#)

[テスト開始](#)

問1

日本の国鳥として定められている鳥は何か、正しいものを1つ選べ。

- キジ
- ハト
- スズメ
- ツバメ

問2

次の中で、ノーベル賞の対象となる分野ではないものを1つ選べ。

- 物理学
- 化学
- 経済学
- 天文学

問3

次の中でユネスコの世界遺産（文化遺産）に登録されている日本の建造物を全て選べ。

- 姫路城
- 法隆寺地域の仏教建造物
- 東京スカイツリー

設問数：3問

中断

提出

問1 未解答

問2 未解答

問3 未解答

問題は選択式で、正しいものを選ぶもの、誤っているものを選ぶもの、正しいものを全て選ぶものなどがあります。

前期研修修了のために

座学として、まずはA・B・Cの3領域、合計70講座の受講を進めてください。

登録作業療法士制度 実地経験について



実地経験

自施設「内」実地経験

自施設・組織内での研修
日々の作業療法士としての実践経験

自施設「外」実地経験

OT協会の定める規定により、基礎ポイント付与に該当する各士会、OT協会、養成校などが開催する学会・研修会などの研鑽経験

自施設「内」の実地経験と自施設「外」研鑽経験の両方含め、
現場における作業療法士としての経験そのものです。

前期研修 実地経験(2年間)
(現場における実践)

後期研修 実地経験(3年間)
(現場における実践)

(B) 各施設・組織の上位者OTなど(先輩や責任者OT)

(C)
実地経験修了確認者

指導・助言・確認

確認

③ 実地経験 修了確認表

(A)
研修中OT

- ① 実地経験自己チェックリスト
② 実地経験目標自己管理シート

登録作業療法士

後期研修では
自己チェック
が中心に
なります。

前期研修では
上位者による
指導・助言・
確認を受け、
最終的には実
地経験修了確
認者から確認
を受けます。

研修中OTの自己チェックと
上位者による確認

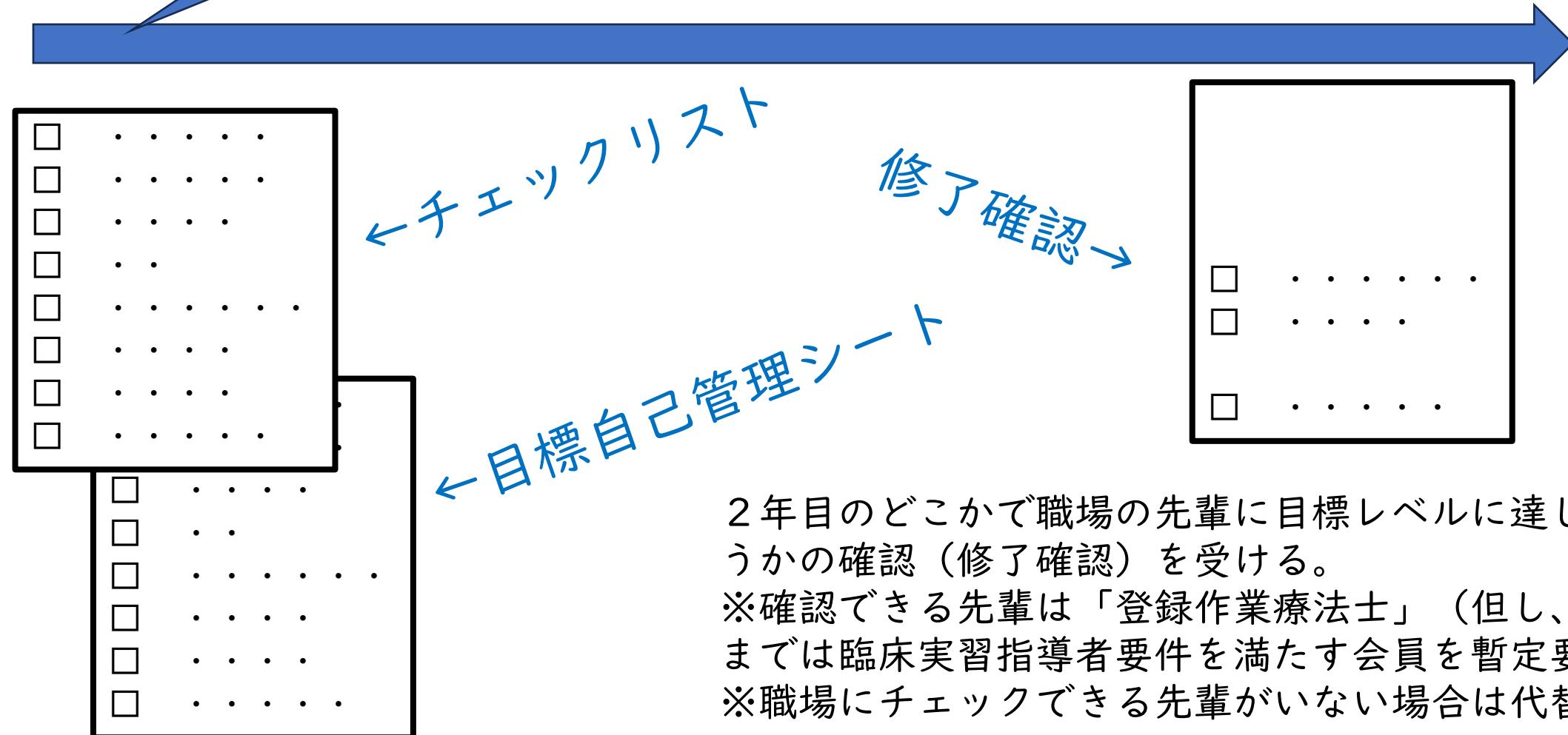
研修中OTの自己チェック
(独力で実施しチェック記録する)

最初は上位者の指導・助言・確認を受けながら自己研鑽の方法を学び、最終的には自分自身で自らのキャリアを考え、自己研鑽ができるようになることを目指しています。

前期研修の 実地経験

OT協会、あるいは職場のチェックリストを基に、2年間先輩の指導を受けながら臨床現場で経験を踏みます。

2年



2年目のどこかで職場の先輩に目標レベルに達しているかどうかの確認（修了確認）を受ける。
※確認できる先輩は「登録作業療法士」（但し、2030年3月までは臨床実習指導者要件を満たす会員を暫定要件とする）。
※職場にチェックできる先輩がない場合は代替要件あり。

「実地経験」における登場人物

(A)研修中OT



- 必要な指導・助言を得て目標設定し、段階的に実践能力を修得。目標と進捗を自己管理

(B)各組織・施設の上位者OT

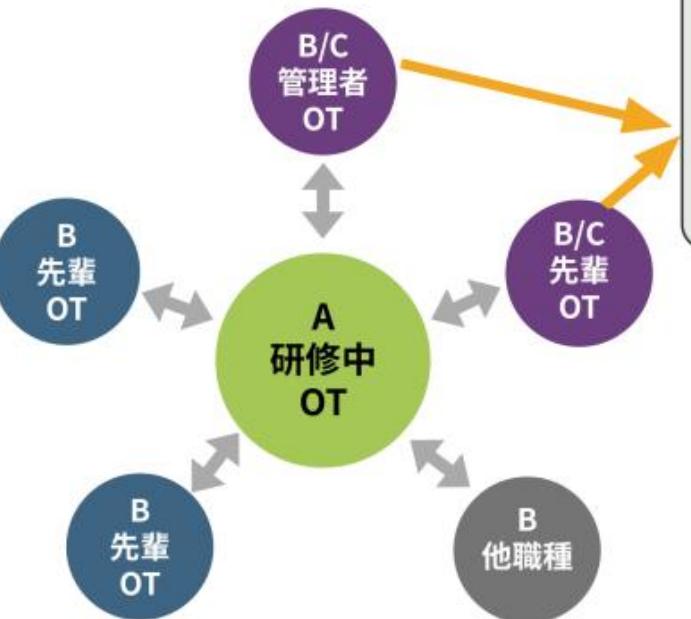
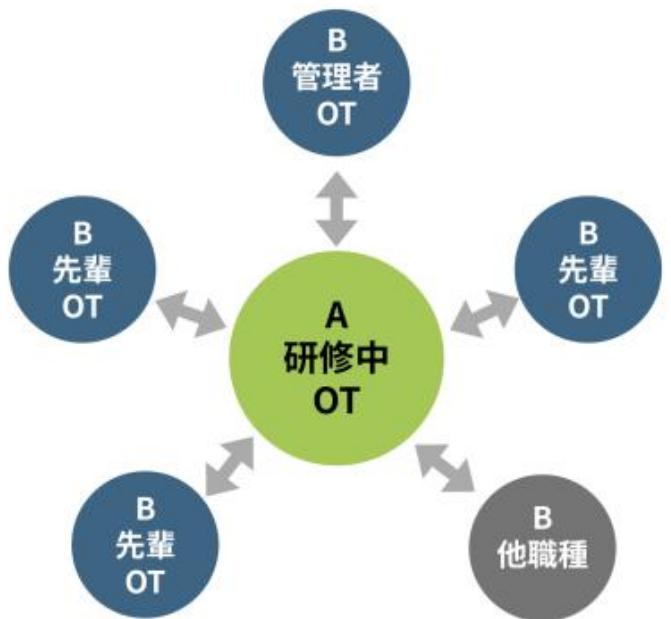


- 研修中OTの目標設定を指導・助言し合意。必要な支援を提供し能力修得をサポート。目標と進捗を適宜確認

(C)実地経験修了確認者



- 研修中OTとともに前期研修(会員歴2年)の実地経験修了を確認



各組織・施設の上位者OT中、
2名が「C:前期研修・実地経験
修了確認者の要件」を満たして
いる場合

その2名が、研修中OTの前期研修・
実地経験修了確認者となる
ことができる

図 実地経験における

(A)研修中OT



- 必要な指導・助言を得て目標設定し、段階的に実践能力を修得。目標と進捗を自己管理

(B)各組織・施設の上位者OT



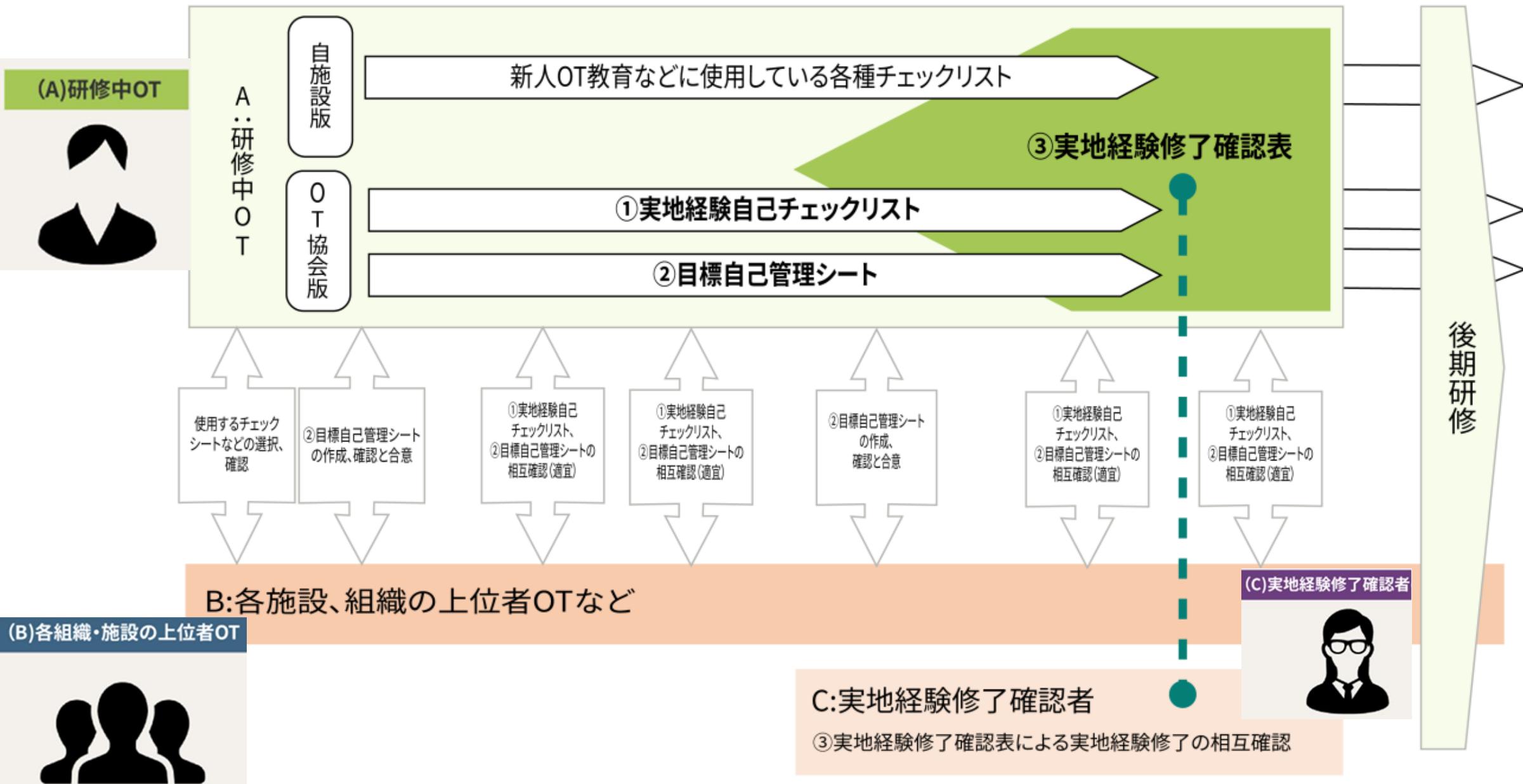
- 研修中OTの目標設定を指導・助言し合意。必要な支援を提供し能力修得をサポート。目標と進捗を適宜確認

(C)実地経験修了確認者の関係



- 研修中OTとともに前期研修(会員歴2年)の実地経験修了を確認

前期 実地経験 1年目(会員歴)						前期 実地経験 2年目(会員歴)						3年目
4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4





実地経験修了確認者の要件

■ 研修中OTとともに前期研修
(会員歴2年)の実地経験修了
を確認

要件	原則要件	暫定要件(<u>2030年3月末まで</u>)
所属	研修中の作業療法士と同じ施設・組織に属する <u>日本作業療法士協会員であること</u>	左記と同様
資格	登録作業療法士である者	以下のいずれかの講習・研修を修了し、認定証を提出できる 日本作業療法士会員も可 ①厚生労働省指定の臨床実習指導者講習会 ②理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教員等講習会 ③日本作業療法士協会による臨床実習指導者中級・上級研修会

自施設に「修了確認者」がない場合

修了確認が得られないので、前期研修「実地経験」のなかで受講する施設「外」研修の数を多くした規定を用意しています。

様々な研鑽経験

実地経験における自施設「外」研鑽経験

OT協会の定める規定により、基礎ポイント付与に該当する学会、研修会など(*)

その他

基礎ポイント付与に該当しない
学会、研修会など

(*)基礎ポイント付与に該当する学会、研修会であるか否かは、協会ホームページ・生涯教育・基礎ポイントについて

およびSIG等認定一覧から、研修主催団体が登録されていることを確認する(https://www.jaot.or.jp/continuing_education/)

前期実地経験中の自施設「外」研鑽経験と必須回数

実地経験における自施設「外」研鑽経験 (基礎ポイント付与に該当する学会・研修会など)

1) 所属する各士会主催・共催の学会や研修会など

2) 基礎ポイント対象の学会や研修会など

3) 養成校が開催する研修会など

前期実地経験中の研鑽「必須回数」 自施設・組織内に実地経験修了確認者

あり	なし
----	----

1) は2回以上

1) を2回以上

かつ

合計4回以上

修了確認者いない場合は修了確認を受けないので、代わりに自施設外研修の参加を合計4回以上（うち2回は所属士会のもの）証明するものを提出する。

※なお、この代替規定は自施設・組織内に実地経験修了確認者がいる場合は使うことができません。

実地経験自己チェックリスト

実地経験自己チェックリスト (Ver.1)

2024作業療法ガイドラインに準拠

1	実地経験自己チェックリスト (Ver.1)							
2	OT協会 会員番号 ()	所属する都道府県士会名 ()	氏名 ()					
3	ラダー4つの力	大項目	中項目	小項目	必要な指導のもとできる	助言のもとできる	独力でできる	助言・指導を得て後輩に指導できる
4	生活行為の向かうする力で、セラピストとしての協力を達成するための実地経験自己チェックリスト							
5	1. 作業療法の実践（作業療法の質を担保するために）							
6	1) 管理運営							
7	一般的リスク管理	一般的リスク管理	一般的リスク管理	バイタルサインの確認をする				
8				全身状態の確認をする				
9				意識・アウエアネス（場所、時間、周囲の状況、自身に対する気づき）の確認をする				
10				衛生・感染管理をする				
11				治療処置管理をする				
12				褥瘡予防、良肢位保持をする				
13				動作介助時の安全の確保をする				
14				廃用症候群予防をする				
15				設備・物品などの環境の保守管理をする				
16				一次救命救急処置をする				
17	記録の作成	記録の作成	記録の作成	評価について記録する				
18				介入の実施について記録する				
19				その他の記録する				
20				所属する職場の職員としての職場ルールを遵守する				
21				所属する職場の社会的役割を説明する				
22	職場の構成員としての役割	職場の構成員としての役割	職場の構成員としての役割	所属する職場の構成員としての役割を理解し、作業療法部の円滑な業務運営に努める				
23				所属する職場の構成員としての役割を理解し、多職種、他機関との円滑な業務運営に努める				

目標自己管理シート

（ ）年度		実地経験目標自己管理シート (Ver.1)	氏名【 】			*自己評価 A:100%達成、B:部分的に達成、C:達成できなかった		
			前期・後期研修（ ）年目					
実地経験自己チェックリスト 該当箇所		目標 前期研修・後期研修（ ）年目に到達する目標	具体的行動（取り組み）	上半期振り返り 目標達成の 自己評価* (A、B、C)	下半期の具体的行動（取り組み）	1年間の目標達成		
1	1)	管理運営				目標達成の 自己評価 (A、B、C)	上位者確認 *確認のみ	
	2)							
	3)	多職種連携 チームアプローチ						
4)								
2	1)	評価 (情報収集、インフォームドコンセント、評価の実施、目標・方針の決定)						
	2)							
	3)							
	4)							
	5)	企画						
	6)							

前期研修・実地経験 修了確認日

西暦

年

月

日

前期研修・実地経験修了確認者 (注1) 記入欄

(注1)

実地経験修了確認者は1)登録作業療法士であることを要件とする。ただし、2030年3月末までは、下欄に示す2) 3) 4)の講習会、研修会のいずれかを修了している協会員も実地経験修了確認者と認める。

氏名(自筆)と押印 (印)	前期研修・実地経験修了確認者が該当する番号を○で囲む	修了証の番号 修了の年月日
	1) 登録作業療法士	
	2) 厚生労働省指定臨床実習指導者講習会修了者	番号() 年月日()
OT協会 会員番号 ()番	3) 理学療法士作業療法士言語聴覚士養成施設教員等 講習会受講修了者	番号() 年月日()
	4) 日本作業療法士協会が主催した中級・上級研修を 受講、かつ作業療法士臨床実習指導者研修修了証 取得者	番号() 年月日()

前期研修・実地経験修了者 記入欄

氏名(自筆)と押印
(印)

所属する都道府県士会名()

OT協会 会員番号

【書類記載に関する注意事項】

この実地経験修了確認表は、正確かつ誠実に記入してください。提出された書類に虚偽の記載があった場合、当該書類に基づく申請や手続きは無効となります。

また、虚偽の記載が判明した場合には、既に履修した研修などの受講履歴を消去し、必要に応じて適切な措置を講じることがありますので、十分ご注意ください。

本事項を理解し、遵守することを確認のうえ、書類の記載および提出をお願いいたします。

実地経験自己チェックシートと目標自己管理シートはOT協会版ではなく自施設版を使用していただいて構いません。

【OT協会版ツール】		使用目的
①	実地経験 自己チェックリスト	研修中OTが実地経験の進捗を自己管理するため、 実施可能となった事項を自己チェックする
②	実地経験 目標自己管理シート	研修中OTが実地経験において修得すべき知識、 技術、態度、研鑽経験などの目標を具体的、 段階的に設定し、進捗を自己管理する
③	前期研修 実地経験 修了確認表	研修中OTが、前期研修・実地経験を終了した ことを実地経験修了確認者とともに確認し、 協会LMSシステムに提出する

◆ ①、②は【OT協会版】でなく、【自施設版】の新人教育ツールなどを使用していただくことでよい

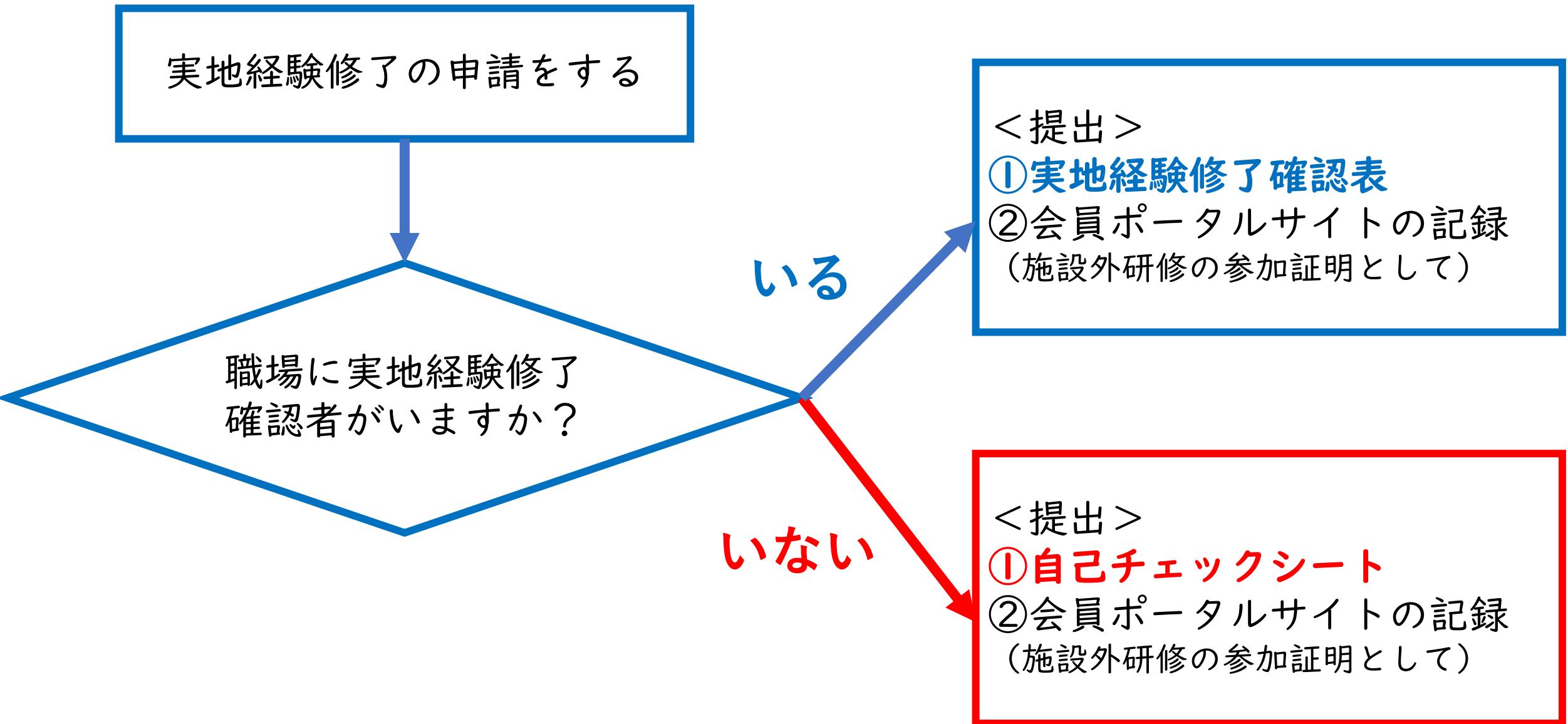
・協会版のシートは網羅的構成なので、使いにくいかも？

・各職場の状況に合ったものを成さざるほうが使いやすいかもしません。

・協会版をつかうまく、そのまま職場の特徴に合わせて使うのではなきわざで項目を追加・削除するほうが使いやすいと思います。

→修了確認者・上位者OTなどと相談しながらご使用ください。

修了確認



実地経験修了確認者

いる

＜提出＞

- ①実地経験修了確認表
- ②会員ポータルサイトの記録（施設外研修の参加証明として）

いない

＜提出＞

- ①自己チェックシート
- ②会員ポータルサイトの記録（施設外研修の参加証明として）

前期実地経験中の自施設「外」研鑽経験と必須回数

実地経験における自施設「外」研鑽経験
(基礎ポイント付与に該当する学会・研修会など)

- 1) 所属する**各士会主催・共催**の学会や研修会など
- 2) 基礎ポイント対象の学会や研修会など
- 3) 養成校が開催する研修会など

前期実地経験中の研鑽「必須回数」
白旗設・組織内に実地経験修了確認者

あり

1) **2回以上**

なし

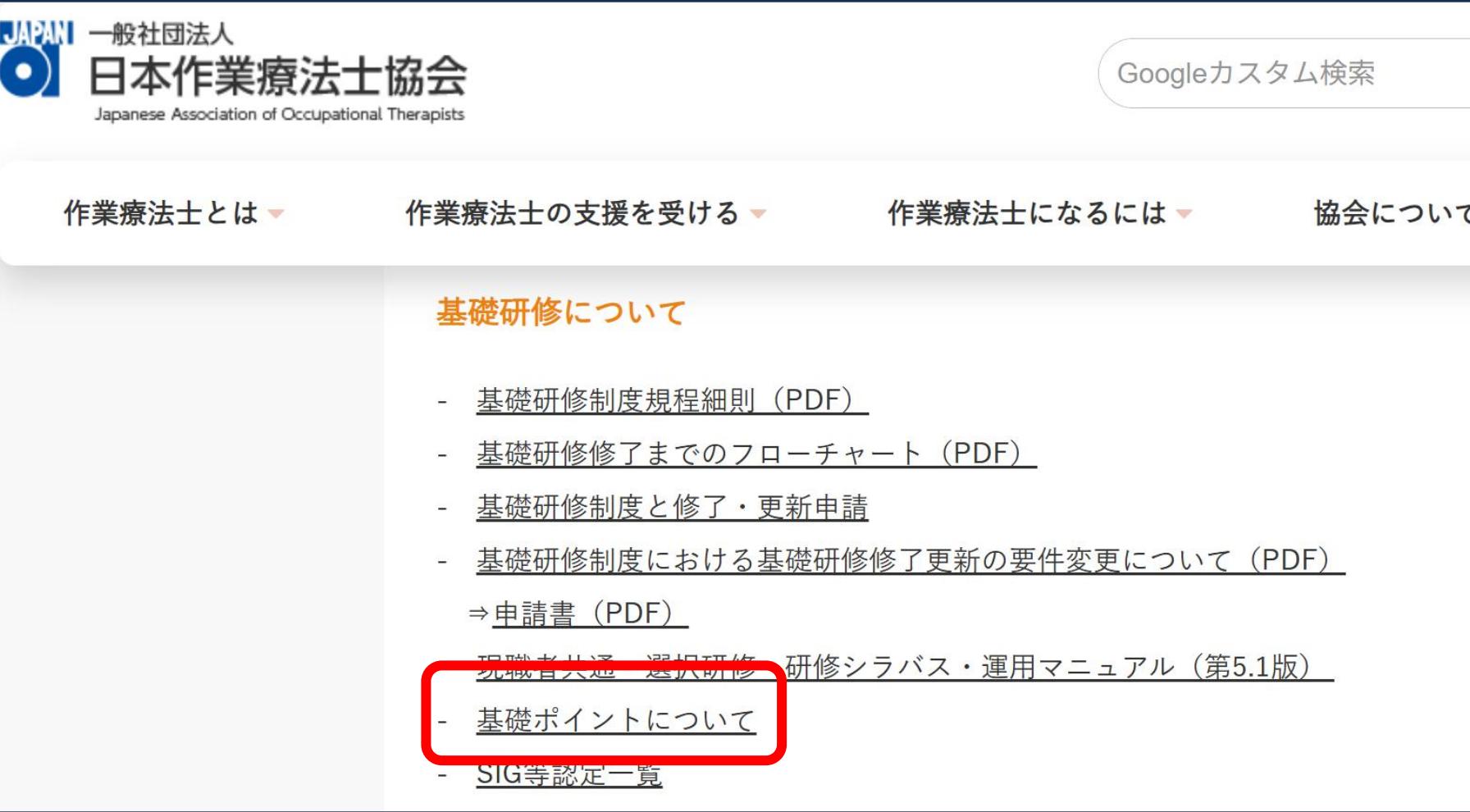
1) **は2回以上**

かつ

合計4回以上

協会、士会の学会・研修会参加履歴は主催者がポータルサイトに記録していきますが、それ以外の団体のものは受講者が記録に残していかなくてはなりません。

ここで「基礎ポイント」という制度が関係してきます



一般社団法人
日本作業療法士協会
Japanese Association of Occupational Therapists

Googleカスタム検索

作業療法士とは ▾ 作業療法士の支援を受ける ▾ 作業療法士になるには ▾ 協会について

基礎研修について

- [基礎研修制度規程細則 \(PDF\)](#)
- [基礎研修修了までのフローチャート \(PDF\)](#)
- [基礎研修制度と修了・更新申請](#)
- [基礎研修制度における基礎研修修了更新の要件変更について \(PDF\)](#)
⇒ [申請書 \(PDF\)](#)

[現職者共通 選択研修 研修シラバス・運用マニュアル \(第5.1版\)](#)

- [基礎ポイントについて](#)
- [SIG等認定一覧](#)

2025年度入会者→登録OTになるまでは基礎ポイントを使うことはありませんが、この基礎ポイントを申請しておくと、その受講履歴がポータルサイトに残ります。

ポータルサイトの記録は前期研修実地経験の修了申請時に用います。

修了確認者が職場にいないケースでは他団体の受講履歴を用いることがあると思います。是非登録しておいてください。



エリエイタリリスヘン レビュウ リソース

基礎研修について

- [基礎研修制度規程細則 \(PDF\)](#)
- [基礎研修了までのフローチャート \(PDF\)](#)
- [基礎研修制度と修了・更新申請](#)
- [基礎研修制度における基礎研修了更新の要件変更について \(PDF\)](#)
⇒ [申請書 \(PDF\)](#)
- [現職者共通・選択研修 研修シラバス・運用マニュアル \(第3.1版\)](#)
- [基礎ポイントについて](#)
- [SIG等認定一覧](#)
 - ⇒ [注意事項](#)
 - ⇒ [他団体SIG等の認定申請・報告書](#)
 - ⇒ [存続不明団体についての会員からの情報公募のお願い](#)
 - ⇒ [養成校・同窓会認定一覧 \(2020.3\)](#)
- [現職者共通研修 事例検討履修申請書 \(Word\)](#)
- [現職者共通研修 事例報告履修申請書 \(Word\)](#)
- [事例検討会受講履歴取り扱いフローチャート](#)

SIG等認定一覧

作業療法士とは ▾

作業療法士の支援を受ける ▾

作業療法士になるには ▾

協会について ▾

入会案内 ▾

会員向け情報

SIG等認定一覧

カテゴリ

学術関連 +

教育関連 +

保険・障害福祉情報 +

地域社会振興関連 +

生活環境関連 +

国際関連 +

学会・他団体・SIG等

養成校関連

フリーワード

名称・旧名称

区分

選択してください

都道府県

選択してください

検索する

-  ホーム
-  会員証
-  登録情報
-  施設情報登録
-  **生涯教育**
-  研修会申込
-  学術データベース
-  会員所属施設名簿
-  ライブラリ
-  諸手続き
-  お問い合わせ

お知らせ一覧

重要なお知らせ

学術部 2025年8月29日 学術誌『作業療法』第45巻（2026年偶数月発行）紙媒体配付希望受付について

学術部 2025年3月4日 学術誌のオープンアクセス化とそれに伴う投稿規定改定のお知らせ

協会からのお知らせ

 制度対策部 2025年10月27日 【制度関連情報】医療・介護・障害福祉

 制度対策部 2025年10月20日 【制度関連情報】医療・介護・障害福祉

 制作広報室 2025年10月15日 モバイル対応版電子書籍『日本作業療法士協会誌』第163号を配信いたします

 国際部 2025年10月15日 2026年度海外研修助成制度の募集期間を延長しました

 制度対策部 2025年8月12日 【申込期間のお知らせ】令和7年度両立支援コーディネーター基礎研修について

会員ポータルサイト

各種申請（生涯教育）

他団体・SIGポイント申請登録

基礎研修修了申請

認定作業療法士認定申請

専門作業療法士認定申請

有効期間延長申請

臨床実習指導者実践申請

臨床実践能力試験申請

生涯教育
→各種申請
→他団体・SIGポイント申請登録

ホーム
会員証
登録情報
生涯教育
各種申請
認定証印刷
研修会申込
学術データベース
会員所属施設名簿
ライブラリ
諸手続き
お問い合わせ

 会員ポータルサイト

-  ホーム
-  会員証
-  登録情報
-  施設情報担当者
-  生涯教育
-  研修会申込
-  学術データベース
-  会員所属施設名簿
-  ライブライ
-  諸手続き
-  お問い合わせ

他団体・SIGポイント申請 仮登録一覧

<input type="checkbox"/>	申請日	受講日	日数	受講テーマ/養成校・同窓会の受講テーマ	他
該当データがありません。					
<div style="text-align: right;"><input type="button" value="申請"/> 新規追加 <input type="button" value="変更"/> <input type="button" value="削除"/></div>					



他団体SIGポイント申請登録

申請日 2025年11月2日

基礎研修修了証 2025年2月1日～2035年1月31日

認定作業療法士認定証（終身含む） 2025年2月1日～2035年1月31日

 受講日from*

～  受講日to*

研修日数

0

他団体SIG区分

他団体SIG名*

受講テーマ

養成校・同窓会の受講テーマ*

ポイント種別*

ポイント数*

0

主催者連絡先

| あ い う え お か な オ ふ か な オ ふ

登録作業療法士制度 概要

日本作業療法士協会、各都道府県士会へ入会



* 前期研修の2年間、後期研修の3年間とは、OT協会の会員歴がそれぞれ通算2年、通算3年をいう
* OT協会の会員歴は、入会月に関わらず、入会した年度を会員歴1年とカウントする

「登録作業療法士を目指す 解説書」



一般社団法人
日本作業療法士協会
Japanese Association of Occupational Therapists

Googleカスタム検索



会員ポータルはこちら

ENGLIS

作業療法士とは ▾

作業療法士の支援を受ける ▾

作業療法士になるには ▾

協会について ▾

入会案内 ▾

会員向け情報

登録作業療法士制度について

[登録作業療法士を目指す 解説書 \(PDF\)](#)



登録作業療法士とは

登録作業療法士は次のように定義されます。

登録作業療法士 定義

一般社団法人日本作業療法士協会登録作業療法士（以下、登録作業療法士）とは、従事する実践領域において頻繁にかかる疾患や障害のある、またはそれが予測される人々に対し、標準的な作業療法プロセスに従い、独力で作業療法を実践する能力を有する作業療法士を本会が定した者をいう。

(注釈)

- ・「標準的作業療法プロセス」とは、自身が従事する実践領域において頻繁にかかる疾患や障害がある者に、最新の知見に基づいて実践される一連の作業療法の過程である。
- ・「作業療法を実践する能力」とは、対象者の生活行為のニーズを捉える力、生活行為の向上に向けてセラピーする力、生活行為の達成の力

https://www.jaot.or.jp/continuing_education/shinsyogaigakusyu2025/

登録作業療法士を目指す 解説書

ver.1

日本作業療法士協会

作成 2025/04/22

本日の話の内容が記載されています。

適宜内容を確認しながら、
登録作業療法士を目指してください。